

7/8(金)12:30～

ありきたりな毎日を変える何かを。

A surprisingly **fine** painting. "Beautiful sea, Brilliant future"



Painted quay wall in the Kerobe area of Touni, a seaside town in Iwate Prefecture.
The wall was painted by students and faculty of Touni Junior High school as an apology for a graffiti incident which angered local residents. It is one of the only surviving structures. 2011,4,16

写真/文 榎田竜路

photo & text by Ryuji Enokida

■タイムテーブル

12:30～ 榎田氏講演

13:00～トークセッション
(映像/写真公開)

13:40～質疑応答

14:10～終了予定



2011. 4.15

唐丹中学校校門付近の坂道、水道が出ないので用務員さんと共に部活に来た生徒が便所用の水を汲みに行く。ほぼみんな部活に来ることができている。

僕は生き残ることが出来ました

メディアとアートは、被災地に何を伝えたか。

メディアとアートの可能性について考えませんか？

日時：7月8日（金）12:30～14:30(途中参加可能)

場所：創思館カンファレンスルーム（定員100名）

お申し込み（下記まで連絡ください）

黒田淳一（政策科学4回）junichi947@gmail.com

主催:立命館災害復興支援室

■講師紹介

榎田竜路 twitter(@ryu_eno)

音楽家、NPO横浜アートプロジェクト、
NPO映像情報士協会

Glocal Media Producer、真荷舟

復興支援メディア隊代表、

EarthVoiceProject、

北京電影学院客員教授、Rainmaker

Project、身体感覚技法追求。

「野生と感性と知性をつにして地球の未来
に貢献します」

わたしたちにできること ー東日本大震災をうけてー

東日本大震災の復興にむけて、「被災者の目と耳と口になる」さまざまな活動を展開している復興メディア隊の榎田竜路氏をお招きし、トークセッションを開催。復興支援メディア隊がインタビューした映像、収集した写真といったメディアを通して、東日本大震災に直面したひとたちは、どう受け止め、どう考えているのか、さらに、わたしたちにできることは何か、をともに考えましょう。

コンテンツ

1)開会にあたって

2)講演 講師:榎田竜路 氏

復興支援メディア隊代表・NPO法人 映像情報士協会 理事長

復興支援メディア隊

目的:

- 1)大震災による被災民の中長期的な復興を支援する情報システムの構築サポート。
- 2) 未来の日本の教科書となるような映像をアーカイブ化し世界中に配信する。

活動内容:

- 1)情報制作・配信の専門家である映像情報士を派遣し、現地行政や民間団体、地方局等の情報の収集・整理・配信のサポートを行う。
- 2)被災地及び、近隣支援地の活動の映像化を行う。
- 3)Facebookを利用した、動画、写真、テキスト等による地域情報の世界配信を行う
英語訳もつける。

Facebookページ: RecoveryAssistanceMediaTeam : 復興支援メディア隊

3)質疑・意見交換

日時 **2011年7月8日(金) 18:00~19:30**

対象 教職員、学生どなたでもご参加いただけます

会場 朱雀 多目的ホール1

参加申込み方法

下記メール宛にお名前・ご所属をご連絡下さい。

＜本件へのお申し込み・お問合せ＞

東日本大震災関連特別検討プロジェクト・災害復興支援室

Tel : (075)813-8130 ・ 内510-2078

Fax : (075)813-8132 ・ 内510-2079

Mail: r2020@st.ritsumeai.ac.jp 総合企画課米倉・桂まで